

為替週間展望 = ドル円は上昇基調で推移か

[11月18日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		11月11日～11月15日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	152.67	156.75(15)	152.64(11)	156.20	+3.56
ユーロ・ドル	1.0719	1.0728(11)	1.0497(14)	1.0548	-0.0170

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	38,642.91	-857.46	日本10年債利回り	1.075	+0.066
ダウ平均株価	43,750.86	-238.13	米10年債利回り	4.435	+0.131

< 来週の主要経済統計等 >

- 18日 NZ第3四半期生産者物価指数
日本9月機械受注
英11月ライトムーブ住宅価格
ユーロ圏9月貿易収支
米9月対米証券投資
20カ国・地域(G20)首脳会議(19日まで)
- 19日 ユーロ圏10月消費者物価指数確報値、ユーロ圏9月経常収支
米10月住宅着工・許可件数
カナダ10月消費者物価指数
- 20日 日本10月貿易収支
中国最優遇貸出金利(ローンプライムレート 1年 5年)
独10月生産者物価指数
英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、英10月小売物価指数
米半導体大手エヌビディアの決算発表
- 21日 植田日銀総裁講演(パリ・ユーロプラス・ファイナンシャル・フォーラム)
カナダ10月鉱工業製品価格
米11月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数
米10月景気先行指数、米10月中古住宅販売件数
- 22日 日本10月消費者物価指数
英10月小売売上高
独第3四半期GDP確報値
独10月製造業PMI速報値、独10月サービス業PMI速報値
ユーロ圏10月製造業PMI速報値、ユーロ圏10月サービス業PMI速報値
英10月製造業PMI速報値、英10月サービス業PMI速報値
カナダ9月小売売上高
米10月製造業PMI速報値、米10月サービス業PMI速報値
米11月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米国の経済指標は堅調で、最高値圏にある米国株も底堅い動きが継続することとなりそうだ。トランプ新政権への期待感もあり、ドルは堅調な動きを見せる展開が見込まれる。こうした中、ドル円は緩やかに上値を迫る動きになるとした。

【トランプトレードでドルは堅調な推移】

12日にはトランプ次期大統領が米国務長官にマルコ・ルビオ上院議員を指名する見通しと報じられた。ルビオ氏はイランや中国に対する強硬姿勢で知られている。また、トランプ氏は対中強硬派のマイケル・ウォルツ下院議員に国家安全保障担当補佐官の就任を打診したとも報じられている。

トランプ次期大統領が主要閣僚ポストに対中強硬派を起用すると報じられたことで、米中对立への警戒感が広がっている。対中関税の大幅な引き上げなどが警戒されており、上海株や香港株の下げにつながっている。

米大統領と上下両院を共和党が支配する「トリプルレッド」が現実となったことで、トランプ次期大統領が減税や関税の引き上げなどの政策を実現しやすくなるとの見方が広がっている。こうした動きを受けて、米インフレ加速が警戒されて、米10年債利回りは14日に4.48%台まで上昇している。ドル高の動きも進んで、ドル円は156円台に乗せている。

NYダウ、ナスダック、S & P 500の主要3指数が最高値圏で推移している。トランプトレードが続くとみられ、ドル高、米株高、米長期金利高となっている。やや過熱感も台頭しつつあり、この流れがどの程度続くかが注目される。

【パウエルFRB議長が利下げを急がないと発言】

13日に発表された10月の米消費者物価指数は前月比が+0.2%、前年比が+2.6%となった。いずれも市場予想の通りとなったが、前年比は前回の+2.4%から伸びが加速した。コアの月比は+0.3%、前年比は+3.3%となり、市場予想と一致、前回と同水準だった。予想通りだったことで、ドル円はいったん154円台前半まで下落したものの、その後は155円台を回復している。

14日の米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の講演では、「利下げを急ぐ必要性を示す経済状況ではなく、慎重に決断を下すことができる」と述べた。また、「政策はより中立的な設定に移行している」とも語った。市場の想定よりもタカ派の目から見方からドルが買われる動きとなった。ドル円は156円台に乗せて、一段高となっている。

CME FEDウォッチによると、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.25%の利下げ確率は、パウエル議長の発言後に59%前後となり、米消費者物価指数（CPI）発表後の83%前後の水準から低下している。据え置き確率は41%前後で、米CPI後の17%前後から上昇している。年内一段の利下げがあるかは今後の経済指標次第で微妙になってきた。

米経済指標は堅調なものも多く、景気は底堅い。12月のFOMCでは利下げに動くかどうかは不透明となっている。市場ではトランプ次期政権への期待からドルは堅調に推移しており、この流れが続いて、ドル円は上昇基調で推移するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、153.00～160.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、18日に日本9月機械受注、英11月ライトムープ住宅価格、米9月対米証券投資、19日に米10月住宅着工・許可件数、20日に日本10月貿易収支、21日に米11月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米10月景気先行指数、米10月中古住宅販売件数、22日に日本10月消費者物価指数、米10月製造業PMI速報値、米10月サービス業PMI速報値、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは下落基調が継続か】

トランプトレードでドルは大きく上値を伸ばしており、ドルインデックスは5日の103.30台から14日には107台まで一時上昇している。ドル買いの影響でユーロドルは大きく値を崩している。6日の1.09台前半から14日には一時1.05ドル割れまで値を崩している。軟調な流れが継続して、一段と下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0300～1.0750ドル。

ポンドドルもドル高の影響で下げが続いている。6日には1.3040台で推移していたものの、12日には200日移動平均線を割り込み、14日には1.26台前半まで下落している。長らく維持してきた200日移動平均線を下抜いてきたことで、調整局面が継続するとみられる。20日に英10月消費者物価指数などの物価指数、22日に英10月小売売上高、英10月製造業PMI速報値、英10月サービス業PMI速報値などの発表があり、その動向次第では上昇に転じる可能性も出てこよう。ポンドドル

の目先の予想レンジは、1. 2400～1. 2850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、18日にNZ第3四半期生産者物価指数、ユーロ圏9月貿易収支、19日にユーロ圏10月消費者物価指数確報値、ユーロ圏9月経常収支、カナダ10月消費者物価指数、20日に中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年 5年）、独10月生産者物価指数、英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、22日に英10月小売売上高、独第3四半期GDP確報値、独10月製造業PMI速報値、独10月サービス業PMI速報値、ユーロ圏10月製造業PMI速報値、ユーロ圏10月サービス業PMI速報値、英10月製造業PMI速報値、英10月サービス業PMI速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。